

PICK UP!

洞爺の「宝」を世界の空へ

## 財田米がANA国際線ファーストクラスの機内食に採用

山内さんに協力し、生産したお米の提供を決めた宮内農園の佐々木哲三さんは、下道町長に機内食への採用を報告。「財田米の付加価値の向上につながってほしいです」と話しています。

6月から8月にかけて、約1.5トの財田米が提供される予定。ファーストクラスで振る舞われる料理には国内外から厳選された食材が使用されており、世界中を行き交う乗客に財田地区が育んだお米の魅力を味わってもらおうこととなります。

財田米がこのほど、全日本空輸（ANA）の機内食に採用されました。ホノルル線を除く全ての国際線のファーストクラスで提供されることとなり、洞爺が誇る食の魅力が世界へと発信されます。

ANAあきんど（東京）から昨年、町に出向し、地域活性化起業者として勤務している山内輝さんが、ANAの社内公募制度を利用して機内食の食材に財田米をアピール。食味の良さなどが評価され、採用が決まりました。



下道町長に機内食の採用を報告した佐々木さん(左)



財田米を生産している財田地区

3/18

スポーツ振興に貢献

## 洞爺湖町体育協会表彰式

洞爺湖町体育協会のスポーツ表彰式が行われ、宮武晃さん（洞爺卓球同好会）、毛利納さん（洞爺湖町陸上競技協会）、新谷政照さん（同）が功労賞を受賞しました。

3人は、所属団体の役員などを長年務め、地域のスポーツ振興に貢献しました。役場で開かれた表彰式では、洞爺湖町体育協会の葛西和彦会長が賞状を贈り、これまでの尽力に感謝を伝えました。



受賞した宮武さん(右から2人目)と毛利さん(同3人目)

3/18

公共交通の未来に貢献

## 札幌トヨタに感謝状

町は、企業版ふるさと納税で200万円を寄付した札幌トヨタ自動車に感謝状を贈りました。

町が夜間の交通空白対策として進めていた公共ライドシェアの実証実験の取組に賛同し、今回の寄付が実現しました。

役場で開いた感謝状贈呈式で、下道町長から感謝状を受け取った相茶省三代代表取締役社長は「地域の交通のために役立ててもらえればと思います」と話していました。



感謝状を受け取る相茶代表取締役社長

### 3/28 脱炭素実現のために 北海道電力と連携協定

北海道電力室蘭支社と町が、脱炭素社会の実現に向けた連携協定を締結しました。協定は省エネの促進などを目的として結ばれ、再生可能エネルギーの導入促進、脱炭素社会の実現に向けた人材育成などの5項目で連携するものです。締結式に出席し、下道町長と協定書を交わした対馬貴子支社長は「町の連携を機に脱炭素や省エネを身近なものにしたいです」と話しました。



下道町長と協定書に調印した対馬支社長(左)

### 3/24 イベント成功に向けて いけませ第1回実行委員会

今夏、開催予定の「いけませ夏フェス2026 in とうやこ」に向けて第1回実行委員会が役場で行われました。「いけませ」は、障害がある子どもと地域住民の交流などを目的に道内各地で開かれており、町では初開催となります。高橋義男実行委員長が講演し「力のある子どもが大人に『できない』と思われているだけ」と強調。子どもの可能性を引き出すために大人が一緒に何かに挑戦する意義を伝えました。



いけませの開催へ協議が行われた実行委員会

### 4/15 観光シーズン到来を前に 西山散策路を整備

洞爺湖町建設協会と町は、今季の利用開始を前に西山麓火口散策路を整備しました。整備は例年行われており、今回はこれまで木製だった柵の支柱のうち約60本をプラスチック製の支柱に差し替えたほか、枕木に空いた多数の穴をモルタルで埋めて補修しました。作業は、北島良人会長をはじめ協会に加盟した建設業者の社員のほか、役場職員などが約5時間かけて行いました。



補修作業が行われた西山山麓火口散策路

### 4/8 充実した3年間を 虻田高校で入学式

虻田高校の入学式が行われ、新入生13人が高校生活をスタートさせました。式では、新入生代表の小林優月さんがあいさつし、全校生徒34人となった虻高の3年間での成長を誓いました。1年生は5月8日、洞爺観光ホテルで宿泊研修に参加し、コミュニケーションのトレーニングなどを行いました。7月には一般公開も予定している学校祭が開かれます。詳細はホームページに掲載されます。



13人が入学した虻田高の入学式